〔『夕刊』第三種郵便物認可〕　昭和十一年四月九日　磐城新聞　〔木曜日〕　第四千五百九十三號　〔一〕

家庭の浄化

古河好間炭礦　前松佐嘉

『彼の通りの剛情我慢の夫だもの何うして手に負へるものではない』と多くの主婦達は慨くかも知れません。其に強いのが男の長所で慢りに強がるのが其の弱點であります。矢面に立つて其強がりと爭へば百害あつて一つの利益もありません。ンコデ『柔よく剛を制へる！』と申しますが、古來の常法で又事實夫の剛情我慢を治す秘訣であります。夫に重々無理はあつても其の無理を無理呼ばはりをせず暫らく其れに負けながら何時とはなしに自分の方に引き寄せる、酒飲みなら酒の相手をしながら遂に酒を止めさせ、外遊びが好きなら自分も亦外で夫を引つ張る人々に負けないやうに寧ろ却つて内の方が面白いとまで思はせるやうに腕に撚をかける。彼んな男に對して馬鹿〳〵しいの感じなどサラリとすてゝ負けて負けてのければソコに自ら主婦の生きられる道があること萬々疑がありません。義太夫にある壺坂靈驗記のお里は此所の道理を具体化したものであります

『踏まれても咲くたんぽゝの笑顔かな』『手折らるゝ袖に香るや梅の花』たんぽゝのやうな梅の花のやうな主婦が内にあれば大抵のヤクザ男も感化の出來ないことはありません。昔から婦人の道を『夫を助けて後顧の患ひなからしめる』と言はれて居りますが昭和の主婦は單に其ればかりでは足りません。目つき、顔つき手つき、などホンの微愛のない日々の細かい事でも夫の機嫌を害せず氣分を快くさせて一家を平和にし健康に幸福にして夫の仕事を助ますやうにするが主婦の最大の務でなければなりません。之が即ち家庭の浄化になるのであります故に『家庭の浄化は主婦に在り』と申上げたいのであります

暁起大雪（二首ノ二）

琢雲　小野務平

環擔凍雀似呼哀
寒樹生春花忽開
一夜成堆三尺雪
乾坤俯仰白皚皚

青春を知る星

窪田繁夫

汝は遠き憧憬の繼人
み空に星と云ふ
竪琴を持て
柔肌の腕に
青春を秘めたアークラドト
流れ來る　其のメロディー
我を導きて
河の畔に　さ迷ふ
野の草蔭に　佇む

磐城歌壇

新妻久滿男選

秋野夕雀

○白々と息こそあはれ出でもれば霜の月夜の影なかりけり

○かねをうつ鈍き音一つがあはれなり霜夜に開けつゝこだましにける

○はり窓に寢息とめつゝ靜けさようからはねしかよき月夜なり

○玻璃窓に片われ月をめにとめてもれば戀しも濡れてゐにけり

小評　第一首結句『影なかりけり』は三句の『出でもれば』と何ういふ因果關係を有つてゐるのか一寸不明な點がある。第二首の鈍き音一つが霜の夜更にこだまするも誇張した言ひ方ではあるまいか。第三首は一句二句少々難しいが作中では祈つきのある靜かなよみぶりの歌である。

講談

黄金魔刀

（119）

商業義生作
樋口悦也畫

巻の一　狼（七）

『はゝう、これは妙だ』

と權六

『ウム、妙妙ちやな』

と彦四郎、いかつい顔をゆるめた

二人は大商人といふ風態藤兵衛は番頭といふ服裝であつた

『そろひもそろつて、珍らしい美女ではないか。何としたか、怖いものにでも出會つたやうに、あわてふためいて……』

『可愛い娘が、百舌鳥にでも出會つたのだらう』

と彦四郎は形容した

二人の娘は、二人に氣がつくと、いよ〳〵あわてゝもとの小路に駈け込んだ彼女達が逃げて來た方面から、一人の武士の姿が現はれた

『玉殿ですか』

『左樣で…意外な處でお目になつた時分、藤兵衛が怠せなく呼べば應ぐる

二人の聲だ

若者の聲だ

人間の……

宇宙の聲だ

そして！……

『あれだな。あの武士がつまり此なのだよ』

『をかしいな。尋常の武士ではないか。何も知らぬ樣子で、悠々と歩いて來るが……』

『いや、氣にかけないで下さい』

彼の連れらしい年少の武士は安治川の立場で見た寛之助を見途へてしまつた。普通の服裝をしてゐるが、大名の若殿といつても恥しくない寛之助の水際だつた男ぶりに眼をみはつた

『貴殿に、折入つて御相談いたしたい事がある。勿論島原屋も出府されたことと思はれるが、こゝでお目に御滯在かお伺ひしたいものでござるが…』

と權六はいつた

『東左衛門只今の住居は、螺殻町で…』

『それならばすぐ近くぢや拙者は八丁堀。今明日もお尋ね仕る』

『どうぞ…』

『今日は、何かこの方面へ……』

『いや、上野から何とつかず……』

錦藏は言葉を濁した。そして寛之助を連れて、權六等と別れた。そのうしろ姿を

横町にまがつて見えなくなつた時分、藤兵衛が怠せなき切つて飛んで歸つた

『どうだつた？』

『いけません。あの娘達は廢ものだ』

先刻から妙に空模樣が暗くなつたかと思つたが、さあツと時雨がかすめて來たが、なるの』

ひとりごとのように、ぽつりと、女は云ふのである。

『私が諦めさへすれば、よいのだもの』

『いいよ、解つたよ』

『そんなこと云つて、私の氣持、少しも判らないのね』

『解つてるよ。だから、東京へ歸ると、云つてゐるぢやないか』

切り（一）

菊池正成

『では、どうしても嫁くと云ふの』

男は、同じ言葉をくり返した

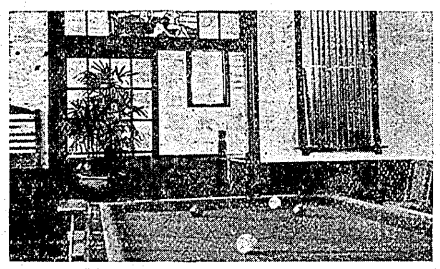
『えゝ、今になつて、驅ぎたくないの』

女の決心が、思ひのほか固いのを知ると、男は鋭い視線を俯向いてゐる女に向けながら、唇をかむだ

だが、それにしては、おしまりにも淋しそうな、女のこの姿ではないか。うす暗がりの中に、ほつかりと白い女の頬は、涙にぬれてゐるように思はれる。風邪をひいてゐるらしく、こん〳〵とせきをするのだ

で　何時の間にか、男は女に對して、哀憐の情を懐氣持には、きはじめたのである

小學校の同級といふ親しみが、戀へと進んで、もう二年近い月日がたつてゐた女の母は、二人の間を許さなかつたのである。だが、



御宴會

毎度格別の御愛顧いたゞき難有く御禮申上げます。
愈々御宴會季節と成りましたので・御宴會の御下命賜り度、團体樣には德用な下記弊館御宴會規定を精々御利用下され度御願申上げます。

松印	3.50	御會席七品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式

但十人樣以上ノコト、藝妓ハ五人樣毎ニ一人二時間（松印ニ限リ平王十人樣ニ一人付）御酒ハ御一人銘酒二本ヅヽノコト

◎お申込みは時節柄なるべく至急下記へ

お問合せは電話（小名濱）103番
通話料は弊館にて負擔いたします。

小瀧鑛泉　瀧乃湯旅館
電話103　割烹部

安齋外科醫院
平町田町
電四七五番

井坂產科婦人科醫院
平町田町
電話　五五九番

前田醫院

榮ちやん
料理　美人　天下一品　マヅイ　おでん
平町新田町
電話三三番

廣告

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備
自炊ノ便アリ
醫學士　山内醫院　山内享吉

移轉御披露
自轉車買ふなら（フタバ）へ行けと言はれ絶大な御引立を蒙りました事を深く感謝致します當店舗は狹隘且つ道路は狹く交通に支障ある爲め其筋より再三注意を受けつゝあり御客樣にも危險と思ひ左記へ移轉致しました就而移轉披露の爲め思ひ切ひた安賣を斷行致　ますドーゾ倍盛の御愛顧と御引立を偏に御願ひ　上ます
フタバ商會
平町新川町郵便局前
谷屋呉服店隣り

五十嵐產婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

病氣ハ
モノサシ
マス
ハカリ
體温器
寒暖計
◎秤ノ取リ方・絲ノ垂レ方・修繕致シマス
關内藥局
電話四〇番

萬人群衆萬歳萬歳

各種　恩給年金の立替
一軍人恩給
一文官恩給
一鐵道年金
右低利ニテ立替ノ求ニ應ズ。
石城郡植田町字本町二六
押田憲一事業部
平町古鍛冶町九〇
平町出張所
電話一九〇番

鰹節と干やなぎは
千宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

日華生命保險株式會社代理店
外務社員募集
（委細面談）

公社債株式現物賣買
照山株式平支店
主任常盤光威
福島縣平町田町五
振替東京八八一三六番
電話四十六番
電話、金融並ニ仲介

平町田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長　金森五郎
醫學士
入院隨時

六百年の金泥燦たる
國寶級の名佛畫發見
根本家から重要美術品指定申請
平町長經由けふ文相へ

平町の舊家として根本姓の本家と云はれてゐる月見町二五根本一馬氏は今八日付を以て所藏の『辨財天十五童子畫像』に對し重要美術品保存法により重要美術品指定方を吉沼町長經由平生文部大臣に申請した、縣史蹟名勝天然記念物調査主任八代義定氏の『根本氏藏辨財天佛畫に就きて』に據ると

――『天野行宮金剛寺古記』中に十五童子供作法の事ありて、奥書に元應元年己未十二月二十七日孟春八日於河州天野北谷文珠院以師主御本書寫了金剛佛子禪惠、春三十六筆、夏廿簡と識されたり（中略）根本氏藏辨財天十五童子畫像は室町時代の作品なるべく隨つて同時代の十五童子供作法の本尊として使用せられたるものならん、同佛畫は縦二尺、横九寸二分の紙本小幅にして保存良好ならざる憾みあれども筆力賦彩共に見るべきものあり云々

〔元應元年〕紀元千九百七十九年（西紀一、三一九）、今から六百十七年前

〔室町時代〕足利義滿が京都室町に花の御所を營み永和四年（一、三七八）これに移つてからの足利氏治世の稱、但し昭德三年（一、三九二）までは吉野朝時代に算入するから室町時代は應永元年（一、三九四）以後永祿八年（一、五六五）足利義輝の薨去迄を云ふ

輝く慈顔

火保料率引下に
平町商工會も合流
當路に陳情書提出

平町の火災保險料率引下陳情は既報の如く來る十一日出仙するが平商工會でもこれと合流して左記陳情書を關係筋に提出、目的の達成に努める

本町火災保險料率引下の件に付ては從來屢々町當局より交涉を重ねたる趣なるも未だ低減の實行を見るに至らざるは頗る遺憾とする所に有之候、其理由とする處は既に町當局より提出せられたる意見書に明瞭なるを以て敢て蛇足を加へざるも的確なる資料に鑑み低減せらるゝは當然の歸結と相考へ候。幸ひに料率低減の實現を見るを得ば更に一層保險契約高の增進するは勿論防火設備の完璧を期し保險事業の發展向上するは疑ひの餘地無之候、從つて其結果は相互の利益甚大なりと確信致候間此際速かに料率低減相成候樣御考慮煩し度此段陳情候也

平町商工會長　山崎清三

優良納稅組合表彰
年度優良納稅組合表彰式は來る十七日午前八時から町會議事堂

春のメロデー
磐女新講堂落成
祝賀音樂會
十九日華々しく開催

高女の新築講堂竣工式は既報の如く櫻ヶ丘の名にもゆかりの櫻花咲く來る十九日（日曜）午前九時から知事臨席の下に擧行、午後は講堂を開き、併せて自校生徒の裁縫、手藝品を含む縣內外女子中等校圖書成績品展覽會を催すが落成祝賀のリサイタルは左記プロの如く

歌謠歌手元樹榮第一高女教諭渡邊はま子さん、新進テノール久富吉晴さん　東京音樂出のピアニスト吉澤愛子さん

の日本ビクター藝術家倶樂部中堅の三氏によつて演せられるが殘念ながら生徒、同窓會員、來賓の外一般には公開されぬと

〔第一部〕1ピアノ獨奏＝練習曲ホ長調作品一〇ノ三（ショパン曲）吉澤愛子　『春の囁き』ズボロ』『峠の春』『佛心花』吉晴『荒城の月』山田耕作編曲　『中國地方子守唄』同編曲　『鉾をおさめて』中山晋平曲　3獨唱＝渡邊はま子　『メリーウイドーワルツ』『酒は涙か溜息か』『ラ・スバニョラ』　4獨唱＝久富吉晴　『狹霧の波止場』『希望の船路』　5獨唱＝渡邊はま子『嘆きのボレ

〔第二部〕1獨唱＝久富吉晴『私の太陽よ』『サンタ・ルチア』『カロラスベン』2獨唱＝渡邊はま子　『お菓子の家』『見よ優しき雲雀を』3二重唱＝久富　渡邊『ハイキング・ソング』『スキーは、招く』『夏の光り』

敏子女史獨唱會
同校櫻ヶ丘會が主催
來月三日一般に公開

磐城高女の同窓學在學の磐崎村高木定雄君會櫻ヶ丘會では來る此程縣下十二名中の一人として陸軍幼年學校に入學を許された

關屋
月三日（日曜）ソプラノ歌手關屋敏子女史を招き獨唱會を開く今回は永年待望だつた講堂の竣工祝賀を兼ねその喜びを頒たんとするもので別項講堂開きリサイタルの來賓生徒のみに公開するに反し一般公開するもので地方愛好家連より期待されてゐる

修學旅行
磐中高女
何れも關西へ

磐城高女四年生約百名は來る二十二日より五泊六日二十七日迄關西、東海地方に修學旅行を行ふ、又磐中四年生約百五十名の同上は來月十三日より六泊七日十九日迄關西地方に

高木君合格　盛岡中は之が迎接に目の廻る程の

喘ぐ求職者の群で
紹介所は汗だく
大量消化が頭痛の種

例年でさへ春になると今ま忙しさ、四家所長も『何せ』で寒さのためすくだまつて希望住込先が幾通りもあつた地方人も弗々各方面にので……』と多忙な春を歎出稼ぎに出るので平紹介いてゐる、尚同所去月中の所はこれらの人々の斡旋で成績は

	男	女	計
求人	三四	六	四〇
求職	四八	一三	六一
就職	三三	九	四二

平町商工會の十一月頃迄に暮しをたてゝゐたが一月頃迄日雇をやり乍ら最近中風のため寢たきりの處へ長女コト（二六）はドン底の生活に嫌氣をさして突然行方を晦したので定吉も寄る年なみにろくに仕事も出來ぬので今八日町役場へ

日用品物價
平町役場調査去月末現在の日用品物價左の如し

白米一等一キロ二二錢　二等二一、五　三等二一
白麥一二、五　平麥一六、
五　味噌並一貫目五五
醬油一升四五　清酒一〇
○　木炭樽丸一貫目二八
樽割二三　雜丸二四　砂
糖白百匁一五　赤一二
豚肉上四〇　並二五　牛
上五〇　並四〇

春寒し、ドン底に逃られ
幼兒を抱えて迷ふ
役場の温情で漸く蘇る

平町役場に泣き叫ぶ幼子二人の手をとつて訪れた去りにきのふの午後浪江方面に出稼に出たまゝ突然行暮しに困るから救つて下さい！』と願ひ出た、右は當暮れたヒデさんは思ひ餘つて時平町長橋町木賃宿止宿横てかくと願ひ出たもので役場市中區若葉町三丁目二八場でもその事情に同情し若生れ福島ヒデさん（三五）で長干の金を惠んでやつたので男富士夫（七）次男富士郎（二）ヒデさんも『今後は桐生市の母子、數日前ゴム靴修繕にゐる夫の兄を頼つて行く藥の內緣の夫柏原定松（四一）つもりです……』と喜んで共に泊り込んだが定松は引下つた

妻は中風、娘は出奔
裏長屋に苦しむ定吉老

平町稱宜町渡邊定吉（六三）さんは妻ナツ（六四）と共に去る一月頃迄日雇をやり辛じて暮しをたてゝゐたがナツは最近中風のため寢たきりの處へ長女コト（二六）はドン底の生活に嫌氣をさして突然行方を晦したので定吉も寄る年なみにろくに仕事も出來ぬので今八日町役場へ

市制を布くには
先進地銚子足利を觀る
○　△　生

流線型機關車の水戸機關庫への廻送はさる卅一日東京局では來る十二日水戸よりでの試運轉も終り成績上々とあるのでいよいよ來る十日頃と決定、十五日迄には試運轉の運びとなる樣である、配給の曉は上野四時四十三分平着で、歸り一本間二〇一、二〇二の兩は二二七を牽引平發午後四列車を牽引する筈で近く試運轉も行はれるが成果頗る三分の筈である

平を中心に飛ぶ
流線型機關車
試運轉の成績期待さる

期待されてゐる尚仙臺鐵道局では來る十二日水戸よりの試運轉も終り成績上々一足先に仙臺—平間でこれを牽引する筈で近く試運轉も行はれるが成果頗る三分の筈である

醫師なき十三ケ村
出張醫療の費用創減に
縣當局で均等策考究

縣衛生課の出張診療班並に今やそれすらも半減されるので縣衛生課ではこれが善後策として現在都市に集中する傾向ある醫師をこれ等農山漁村にも均霑すべく縣委託出張醫師の費用は本年度より大削減を受けることになつてゐるが郡下三十四ケ村中醫師のない村は十三ケ村の多きに上つてゐる狀態で現在までは診療班の活動により辛うじてこれが醫療を施行しつゝあつたが

拐帶小僧
捕る
好間村大字上好間仁太郎四男鈴木光八（二八）假名―は橫濱市鶴見區生麥町木炭商舟越久方に奉公中貿上金三十圓を拐帶逃走、七日親元へ舞ひ戻つた處を手配により中署に檢擧された

詐欺　澤渡村下市萱材木

列車飛逃げ犯人の
共犯者一名捕はる
殘る二名は逸早く逃走

列車飛び逃げ犯人――內郷も、昨報の如く共犯者は鍛冶を進めた結果昨七日午後一時假名―は平署の取調べに至り同人の手先となつて（二九）假名―は平署の取調べに至り同人の手先となつて

天氣豫報
小名濱測候所觀測
今晩も明日も北東の風　曇時々雨

夜間診療
內科　胃腸病科　專門　花柳病科　性病科　皮膚科
（見習看護婦募集）

鈴木醫院
內郷村高坂　磐炭病院前
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）
藤田女學校前
「入院のお需めに應ず」
（看護婦及び見習看護婦募集）
送り物に　鰹節と　干やなぎ
魚問屋
平町四丁目　電二一三

立會議員選擧　轉任及退職三瓶元治（三六）は一昨年二月中樽臼を五圓で賣ると稱して赤井村赤井宮田吉廣並に同村堀內巳之吉の兩名より手付金として各一圓を受取つたまゝ現品を渡さぬので平署に訴へられた

花澤文庫氏
平町胡摩澤花澤文庫氏は過般來病氣療養中であつたが藥石効無く昨七日永眠、今八日午後一時平町長橋町の自宅出棺、同市中區若葉町三丁目二八番地の自宅にて葬儀を執行した

九日
（小名濱測候所調査）

日出　五、一三　月出後　八、二五
日沒　六、〇五　月沒前　五、五六
滿潮前四、〇〇　後五、四〇　干潮前一一、一五　後一一、〇五

諸倒定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　希望計畫の大にして貴殺之に伴はざる日▲二黑　利益有りと知りながら實行準備はざる日▲三碧　感情のみ盛んにしてちん蒼を失ひ不利となる日▲四綠　外出先にて隣近所迄起らんとする內なる日▲五黃　きよしよくを張りて內輪は苦痛を脅さんとする日▲六白　自ら過つ事はなけれど他より災禍をかうむる日▲七赤　うは調子は敗北の法則にして萬事を處すべし▲八白　榮實なる精神を以て進めば災害を免かる日▲九紫　慾を捨て新を望むときは破敗を呈すべき日

赤木曜新
三月　亥酉四
十月　友引
八日　執　九
日　斗宿日